

# 幼児教育長期派遣通信 1 学期号

発行 令和6年7月25日

東広島市立下黒瀬小学校 仁井 貴士（派遣園：広島大学附属幼稚園）

## 1 1 学期の研修内容

- (1) 園内研修→保育補助を通して園児の実態把握、つながりの把握、保育者の意図を把握  
園内外環境整備、園行事参加、保育カンファレンスなど  
幼児教育理解に係る研修会・接続に係る研修会・報告会
- (2) 園外研修→自校のスタートカリキュラム把握→改善計画  
他校のスタートカリキュラム参観→協議  
幼児教育理解に係る研修会（子供理解・ペアレントトレーニング）  
他保育所・幼稚園での保育カンファレンス

## 2 研修を通して

私は、13年ぶりの保育現場に立ち、園内研修の発達段階に応じた保育補助を通して、子供が自分の意志や考えをもちながら「人」「もの」「こと」にどうやってかかわっていくのか、また、その姿に見え隠れするそれぞれの子供がもっている「思いや願い」、さらには、保育者がどのように環境設定をし、「まなざし」をもちながら子供との生活を過ごしているのかを学び、深く考える時間となっています。

そこで、様々な事例を通して、担任の先生方との対話の中で見えてきた、幼保こ小の架け橋をかけていく上で大切だと思うポイントの中で「やってみたい！」について考えてみました。

## ○「やってみたい！」をつなげる→

### 【好奇心・向上心】を中心に様々な資質能力につながる！

幼児期の子供は本能的に「やってみたい！」に溢れています。

私が日々かかっている広島大学附属幼稚園（東広島園舎）の子供たちは、自分の好きな「遊び」に没頭する毎日です。もちろん、そこには子供の「やってみたい！」という思いや願いがあり、その「やってみたいパワー！」を小学校につなげることができれば、小学校にも「やってみたい！」が溢れていき、様々な学びの連続性の大きなエネルギーとなっていきます。

これまで派遣園以外の保育所、幼稚園、こども園も見学しましたが、子供の「やってみたい！」を伸ばすために、どの園所も、場所の特色に合わせて「やりたい」ととことんできる環境づくりと、保育者は子供が「やりきる」まで「任せて」「見守り」「待つ」ことをしていました。そうやって溜めてきている「やってみたいパワー！」を、小学校で、どこでどのようにつなげますか？

やってみたいパワー



## 人とかわる力

友だちと力を合わせて遊ぶことや、いざこざや葛藤の場面で、自分だけでなく他者を介して自分の気持ちに折り合いをつけたり相手の気持ちを思いやりなどの経験をして育ちます。小学校では、幼児期に育んだ「思い」や「願い」を大切に生活をつなげることが大切だと思います。

## やりぬく力

遊びに没頭することや、困難やくじけそうになっても、気持ちを立て直して最後まで粘り強く取り組み、満足感・達成感を味わうなどの経験を通して育ちます。小学校では、幼児期に育んだ「没頭する」ことがつながるようにすることが大切だと思います。

## 考える力

遊びをもっと楽しくするために、イメージを膨らませ、実現するように工夫することや、試行錯誤しながら失敗したことを生かしてよりよい方法を見付け、やり遂げるなどの経験を通して育ちます。小学校では、幼児期に育んだ「考える」ことを止めないようにすることが大切だと思います。

## うごく力

楽しく製作することや、遊びの中で思い切り体を動かしながら、様々な動きを獲得するなどの経験をして育ちます。小学校では、幼児期に育んだ「動く楽しさ」を自覚できる活動をしていくことが大切だと思います。

## 感じる・気付く力

自然の原体験や、身近な動物の生命など、生活の中にある様々な「人」「もの」「こと」と出会い、子供たちは諸感覚を働かせて育ちます。小学校では、幼児期に育んだ「気付く力」を生かせる環境が大切だと思います。

## 資質能力につながる

### 3 まとめ

幼児期に遊びを通して、資質能力につながる「5つの力」を育んでいます。この「5つの力」を育むことで「やってみたいパワー！」が溜まり、小学校に向けての大きなエネルギーとなります。その大きなエネルギーを小学校とのつながりで考えてみると、子供の気付きを大切に、子供がする様々な動きに対して自覚できる活動を設定し、子供が考えることをやめないように、子供主体な学び方にする。そういったことを実現するためには、子供の「思い」や「願い」を大切に、没頭できる学習活動を子供と一緒に考えながら取り組んでいくことが大切だと考えます。

子供の「やってみたい！」を「5つの力」の観点で小学校につなぎ、子供が幼児期に「遊び」の連続性で育んできた、たくさんの「学びの芽」を、小学校での積み上げ型の学びの中で、子供自身が「学び」の連続性としていけるようにしていくことがポイントだと思います。だからこそ、これからも幼児期の遊びで付いている力を分析し、小学校への学びにつなげていきたいです。

#### 〈乳幼児教育支援センターより〉

子供が、遊びを通じて学ぶことの楽しさを知り、積極的に物事に関わろうとする気持ちをもつようになる過程こそ、小学校以降の学習意欲へとつながっています。そのために、教師は子供が望ましい経験ができるよう細やかに姿を見取り、意図的に環境を構成しています。どのような意図で環境を構成しているのか、今後もしっかり学んでいきましょう。